

埋文よこはま 1

横浜市埋蔵文化財センター 横浜市都筑区勝田町760 TEL045-593-2406

00.3.31

埋蔵文化財センターから ニュースをお届けします

横浜には、およそ2,500カ所の遺跡があります。これらは、遠い昔からこの地で繰り返し広げられてきた人々の暮らし、歴史の営みの跡であり、それが大地に埋もれて今に伝えられてきたもので、埋蔵文化財と言われています。遺跡は一つ一つに歴史の証拠が現物で残っており、これによって歴史の実際を検証したり、記録のない時代や地域の歴史を解明することができるのです。

ところで市内では、ここ20～30年の間の急激な都市開発で、数多くの遺跡が失われました。その中で港北ニュータウン建設では260カ所を越える遺跡が発掘され、現在その整理・研究を埋蔵文化財センターで行っています。また、道路や学校の建設など公共事業で遺跡が壊される場合や、工事中に突然見つかったものなどについては、主として埋文センターが発掘調査を実施しています。そしてこれらの発掘調査や整理・研究の中で、横浜の歴史が次々と明らかになってきているのです。埋文センターでは、これらの成果を広くお知らせするために、このたびニュースを発行することにいたしました。遺跡から明らかになる横浜の歴史をぜひご覧下さい。そして皆様に埋蔵文化財への理解を深めていただければ幸いです。



赤うるしで彩色した縄文の大鉢

この土器は、縄文時代中期の大集落・都筑区大熊仲町遺跡の堅穴住居跡から出土した大型の浅鉢を復元したものです(勝坂式土器・約4,500年前)。くの字に屈曲した口縁の外面に、低い隆帯で上下を画し、その間に間隔をおいて九つの枠を作り、

中に赤漆の線で文様を描いています。隆帯の上も赤く塗られており、下地には黒漆をかけているようで、赤と黒で華麗に彩られた口径40cmの大きなうつわです。漆は縄文時代前期(6,000年前)には使われており、土器や木器の他、櫛もあります。

不思議な顔面把手

縄文時代中期の勝坂式土器は、豪壮・雄大な文様を持つ事で知られ、様々な意匠文や立体的な装飾把手がつけられますが、その中の一つに顔面把手というのがあります。これは人の顔を表現した把手で、顔はボールを半分に切ったような半球状で中空になり、目尻は切れ長で吊り上がり、小ぶりの鼻と口が付き、さらに顔の回りには髪の毛を表現したかのような渦巻状の装飾を隆帯で付けています。どの顔も表現方法や表情がよく似ており強い共通性がうかがえます。この顔面把手付き土器は数が少なく、日常の容器ではなく特殊な用途を持つと考えられています。山梨県須玉町御所前遺跡の土器は有名で、よく写真等で紹介されているので、ご存じの方も多いでしょう。



C17遺跡出土顔面把手

さて、港北ニュータウン地域内の遺跡からは縄文中期のムラが数多く発掘され、たくさんの勝坂式土器が発見されていますが、その内の一つ、都筑区にある大熊仲町遺跡から出土した顔面把手付き土器について紹介します。

土器はやや小型の深鉢形土器で、大ぶりの顔面把手が付けられていましたが、不思議な事に顔に目や鼻、口の表現がされていませんでした。顔の形や頭部の表現など顔面把手の特徴そのままなのに、肝心の目鼻口がないのです。こうした例はほかに埼玉県狭山市宮地遺跡で出土した1例が知ら



大熊仲町遺跡出土顔面把手付深鉢

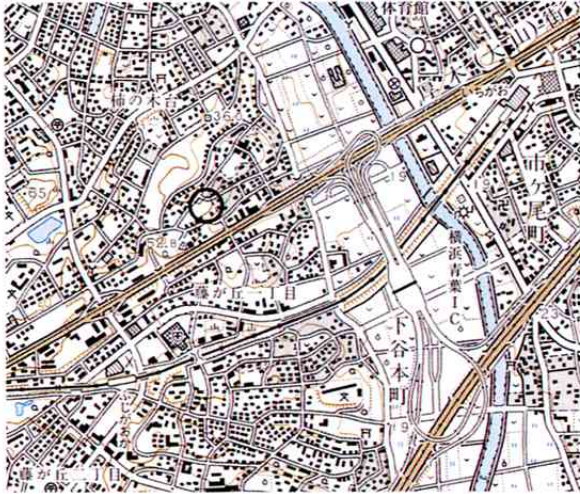
れているだけで、ごく特殊なものといえるでしょう。顔面把手付き土器は、その表現から精霊や神といったものと結び付け、呪術的性格を持つともいわれていますが、目鼻口を付けないのもその一つの表現方法なのではないでしょうか。4,500年前の人達はこの土器をどういう気持ちで込めて作ったのでしょうか、この疑問に対する答えは残念ながら分かっていません。また、顔の裏側に当たる把手の外側の部分の文様は、片方が十文字の切り込み、もう片方が円形の穴になっており、見様によってはこれもなにかを表現しているといえるでしょう。宮地遺跡の把手も同じような十文字の切り込みと隆帯による渦巻き文が付いており、なにか共通した意図があるようにも思えるのです。

大熊仲町遺跡からはこの顔面把手付き土器や本紙冒頭の赤彩文浅鉢など珍しい土器のほか、多くの土器・石器、さらに土偶、岩偶、装身具、土鈴などがみつかっています。

これらはこの秋、10月7日～11月16日まで横浜市歴史博物館で開催される特別展『発見！巨大集落』で実際に目にすることができます。(坂上克弘)

《緊急調査》

藤が丘横穴墓群



藤が丘横穴墓群の場所 (1:25,000)

本年2月15日、横浜市教育委員会文化財課から埋文センターに連絡があり、青葉区藤が丘一丁目の工事現場で横穴墓が発見されたので、緊急に調査してほしいとの要請をうけました。センターの調査第二係ではただちに現地に急行して状況を確認し、17日から3月3日まで調査を実施しました。

現場は国道246号線（厚木・大山街道）沿いの台地急斜面で、マンション建設の工事で斜面を削っていて、横穴墓の玄室の壁を崩したものです。

古墳時代後期（6世紀）には小型の円墳が多数作られるようになり、もはや古墳は豪族だけのものではなく、村の中でも有力な家では古墳を作るようになります。横穴墓もその一つで、急斜面や崖にアーチ形の横穴を掘り、奥にひつぎを

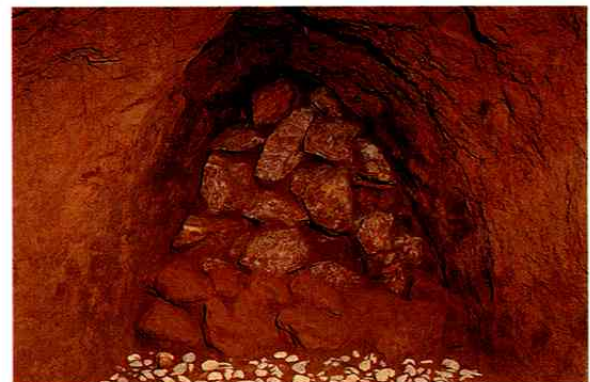


小石を敷いた玄室（奥から入り口の方をみる）



アーチ形の奥壁の前に一段高い棺座

安置する部屋（玄室）を設けたものです。初めの頃は玄室も広く、須恵器のうつわが添えられ、葬られた人も鉄刀を帯び、玉を連ねた首飾りや金銀や銅のイヤリングを身に付けていました。しかし時と共に墓の規模は縮小し、奈良時代になると副葬品もほとんど無くなり、間もなく古墳は作られなくなります。豪族の支配する時代は完全に終り、行政制度を整えた古代の国が完成するのです。



入り口を閉じた岩積みを墓の中から見

藤が丘の横穴墓は先に玄室に穴が開いたため、入口が塞がれたままで内部がわかるという珍しいケースですが、中には棺座の上に頭、顎、手足の骨が一部残っただけで他に何もなくて、おそらく奈良時代に作られた終末期の横穴墓と考えられます。この他にもう1基、わずかに痕跡だけが残っていました。これらの墓を築いた古代家族の住む村が、谷本川をのぞむ付近の台地上にあったのでしょうか、その遺跡はわかっていません。

🌿 行ってみよう 🌿

横浜市歴史博物館と大塚・歳勝土遺跡公園



博物館常設展示「古代」の部屋

横浜市歴史博物館は、横浜の原始から現代までの歴史を専門とする博物館で、市営地下鉄「センター北駅」前、徒歩5分の所にあります。

常設展示室は、原始から近現代まで6つの部屋が円形に配置されています。各部屋の中央には横浜のその時代を象徴する大型のジオラマや模型が置かれ、原始・古代の3室には南堀貝塚の縄文集落、大塚・歳勝土遺跡の弥生環濠集落と墓地、長者原遺跡の古代都筑郡役所があります。

今秋の特別展は、都筑区大熊仲町遺跡を軸に、縄文の巨大集落の実像に迫ります。

《特別展》 『発見！巨大集落』

—大熊仲町遺跡と縄文中期の世界—

期 間 10月7日(土)～11月16日(日)



遺跡公園 復元された弥生のムラ

博物館に隣接して、大塚・歳勝土遺跡公園があります。国史跡で、弥生時代中期（2千年前）の環濠集落と墓地が復元されています。大溝と土塁に囲まれたムラの中に竪穴住居や高床倉庫が建ち並び、近くに方形周溝墓群があります。

開 館：午前9時～午後5時（入館4時半まで）

休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始

入館料：一般400円、高・大学生200円

小・中学生100円(企画展、特別展は別料金)

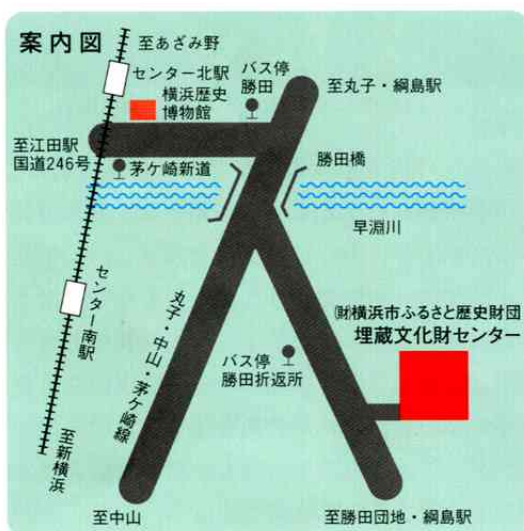
電 話：045-912-7777(代表) FAX:045-912-7780

ホームページ：<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

※ ※ ※ ※ ※

1年に2回、とびきりのニュースをお届けします。

題字は香川正彦所長の揮毫によるものです。



●埋文センターへのご案内●

発掘出土品や整理作業の様子が見学できます。埋蔵文化財や歴史に関する質問も歓迎します。

開 所：午前9時～午後5時。土・日、祝日休み

交 通：東横線「綱島駅」より東急バス①「勝田折返所」行終点。田園都市線「江田駅」

より東急バス「綱島駅」行「勝田」下車

埋文よこはま1

発行日 2000年3月31日

編集・発行 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター

横浜市都筑区勝田町760 (〒224-0034)

TEL 045-593-2406

FAX 045-593-2403